

3月3日(日曜日)午後1時から5時まで、日本赤十字社中四国ブロック血液センター研修室にて、当センター主催による開設記念 HbpMS セミナー第5弾『ヘルス・ビジネス・アンド・マネジメントの人材像を考える』を開催いたしました。このたびは県内の医療介護関係者と経済界関係者が一堂に集って人口減少のもとで進むわが国の高齢化社会をどのように知恵を凝らして経営していくかを考える機会といたしました。またそのため広島大学医学部同窓会と広島商工会議所からご後援をいただきました。

そして、広島大学大学院医歯薬保健学研究科長等の研究者の皆様や広島市医師会長等の医療界の皆様、そして医療産業分野の企業トップ等の参加者で会場一杯となる150人が揃い、田邊昌彦広島県副知事、平松恵一広島県医師会長、廣田亨広島商工会議所副会頭、川本ひとみ広島県看護協会会長からご来賓のお言葉をたまり、セミナーが開始されました。

セミナー冒頭では、センター長から『医療介護の経営人材養成について』と題して趣旨説明をさせていただき、養成すべき人材像として π (パイ)型人間の概念をご紹介いたしました。

そして講演第1席は座長の浅原利正先生(広島県病院事業管理者、元広島大学学長)から紹介された講師の迫井正深氏(厚生労働省大臣官房審議官、経済産業省商務・サービスグループ政策統括調整官兼任、内閣官房健康・医療戦略室次長)から『少子高齢化に対応する病院運営を目指して』と題して、只今国が進める医師の働き方改革について検討中の内容にも踏み込んだ解説をいただき、近い将来の病院における医師稼働体制の予想と病院経営への影響について説明をいただきました。

続いて講演の第2席では、座長を土肥博雄先生(日本赤十字社血液事業本部相談役、広島赤十字・原爆病院名誉院長、広島大学医学部医学科広仁会会長)にお勤めいただき、県立広島大学ビジネススクール、HBMS 研究科長の横山禎徳氏(東京大学 EMP 企画推進責任者、元マッキンゼー・アンド・カンパニー東京支社長)が『社会システム・デザイン論が説く日本の医療システムの改革と経営』とした本日の主題講演を90分にわたって行ないました。その内容に参加者の皆さんが強い関心を持たれたことから、セミナー終了後に希望者のみにご案内した同会場懇親会には関係者を合せて半数近くの方々が残られ、広島県のヘルス・ビジネス・アンド・マネジメント分野における産学交流のまたとない機会となりました。なお、この懇親会の設営と運営は、一般財団法人社会福祉・医療事業の経営研究会(角田愛次郎理事長)のご支援で実現いたしましたことをここに記して感謝申し上げます。



研究センター開設記念HbpMSセミナー ⑤

ヘルス・ビジネス・アンド・マネジメントの人材像を考える

広島大学医学部医学科広仁会、広島商工会議所 後援

日時 2019年 3月3日 13:00~16:00
(16:10-17:00閉所にて懇親会を予定)

会場 日本赤十字社 中四国ブロック 血液センター研修室
広島市中区千田町2丁目5番5号

参加費 150名

参加料 無料 懇親会費 2,000円 ※希望者のみ

スケジュール	内容
13:00 開演	来賓センター運営挨拶
13:00 ~ 13:15	ご挨拶
13:15 ~ 13:30	講演1 「医療介護の経営人材養成について」 西田在賢センター長 (中四国地区ヘルスケアマネジメント分科長)
13:30 ~ 14:15	講演2 「『医療的価値社会における高齢介護等社会保険の制度変遷の考察』 講師：辻井 正彦 (伊予大学健康政策学 経済学部長/健康サービスグループ長/健康政策推進官/ヘルスケア推進員 広島県立広島大学) 座長：渡辺 利正 (広島県立広島看護学校長、元広島大学学長、元広島大学学術部長)
14:15 ~ 14:30	休憩
14:30 ~ 16:00	講演3 「社会システム・デザイン論が拓く日本の医療システムの改革と展望」 講師：成山 誠雄 (HBMS研究員、専攻大学EMPA学術部長/学長、元マツシバ・アンド・カンパニー(株)専攻部長) 座長：土肥 博雄 (日本赤十字社血液センター長/血液センター長、元赤十字社血液センター長、元赤十字社血液センター長)
16:00 懇親会	懇親会(希望者のみ)
16:10 ~ 17:00	懇親会(希望者のみ)



HBpMSとは
HBMS (Hiroshima Business and Management School + Health Policy and Management Studies)
医学部医学系(広島県立広島看護学校)推進部から、協定による共同開催の運営事業。医療系と経営系を融合し、経営学を研究し、その成果をもとに、社会に貢献するための実践的知識とスキルを養成するための講座。経営学をマネジメントの視点から、人財養成の高度化を図る。

お申し込み方法 申込締切：平成31年2月28日(木) 但し、定員に及び次第お切りです。HBMSのウェブサイトにてお申し込みください。

問い合わせ先 公立広島大学 MBA事務局推進担当
 TEL:082-251-9726 E-MAIL:mbo-office@pu-hiroshima.ac.jp
 広島県広島市南区学芸1丁目1-71
<http://mbo.pu-hiroshima.ac.jp/>

HBMS 地域医療経営
プロジェクト研究センター
Center for Health services Management Studies

Center for Health Services Management Studies

研究センター開設記念HbpMSセミナー ⑤

ヘルス・ビジネス・アンド・マネジメントの人材像を考える

広島大学医学部医学科広仁会、広島商工会議所 後援

本格的な人口減少と高齢化が進む日本は、ヘルスケアすなわち医療介護の総合確保推進のための経営人材の養成が急がれています。

さて、その「経営」なるものの捉え方ですが、かねてより私は「経営とは資源の配り廻りのこと」と説明してまいりました。と申しますのも「経営」という漢字には金儲けの意味は元来なく、この用語を作り出した中国の約2500年前の書物「詩経」の中に載る詩に「経営」が現れ、そこでの意味は、土地を測量して建物を造営する一連の作業を指しました。そしてやがてもっと広く事業一般を指す意味に使われるようになりました。

なお、「経営」の英語managementにやはり金儲けの意味はありません。日本では幕末から明治に入る頃に英語が修得され始めますが、当時のことですから漢学の素養がある人が訳されたのでしょう、翻訳が正しくなされています。なお、動詞のmanageが日常で使われるときは正に「配り廻りする」が当て嵌まる、私は米国に住んでたびたび実感しました。ちなみに経営で配り廻りする資源とは、ヒト・モノ・カネであり、昨今はこれに情報が加わっています。

さて、患者の診断は医師の役目です。その診断の実績の様子を観察しますと、当該患者に向けた医療資源の配分の決定であり、医療資源の配り廻りです。ですから医療の経営なるものは、本来、医師が専らとすべきところのものです。ところが、日本ではいつ頃からか、「経営」は商人が専らとする金儲けのことだと解釈され、人の命を預かる医師が手を染めるものではないと思われるようになりました。私が大学院生だった1970年代後半でも「医は仁術であって算術ではない」と標榜されていたのを憶えています。

ですが、80年代にコンピュータの普及が進み、90年代にインターネットが普及し始める頃には情報も経営資源だとの認識が深まり、また2000年に入ると非営利事業にも経営が必要だとの理解が日本人の間で高まるようになりました。

今あらためて医療でも限られた資源の配り廻り、すなわち経営の考え方が必要であることを、医師をはじめとする医療界の方々にご理解していただくと共に、経済界の方々にはこれまで取り組んでこられた事業経営との接点にお気付きいただける機会を設けていただきたいと思いますと考えて参りましたところ、この広島の地で叶うこととなった次第です。

日本社会の今後を支える重要な課題であるヘルス・ビジネス・アンド・マネジメントの人材像を、是非この広島から発信していきたいものと考えます。

2019(平成31)年1月吉日

HBMS地域医療経営プロジェクト研究センター長 西田 在賢